


聖母ニュース



編集・発行
 社会福祉法人聖母会聖母病院
 〒161-8521
 東京都新宿区中落合2-5-1
 TEL03-3951-1111
<https://www.seibokai.or.jp>



◆ 理 念 ◆

愛をもって病める人を癒されたキリストにならない、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみます。

◆ 基本方針 ◆

1. 生命を尊重し、最善の医療をおこないます。
2. 地域医療機関および福祉施設等と連携し、安心できる医療をおこないます。
3. 病院の理念に基づいて質の高い医療人を育成します。

◆ 患者の権利と責務 ◆

患者の皆さまには次の権利が保障されています

1. 平等かつ適切な医療を受けられます。
2. 人権が尊重されます。
3. 病気、治療について十分な説明が受けられます。
4. 医療内容を選択または拒否できます。
5. 個人情報やプライバシーが守られます。
6. セカンドオピニオンを求めることができます。

◆ 患者の皆さまへお願い ◆

1. 適切な医療を受けるために、健康(病状)に関する情報を正しくお知らせください。
2. 医療行為に関して納得したうえで意思を明らかにし、指示に従ってください。
3. お互いによりよい治療と療養生活を送るために、定められた規則を守ってください。

聖書のことば

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きるためのわたしの肉のことである。(ヨハネ6:51)

I am the living bread which came down from heaven; if any one eats of this bread, he will live forever; and the bread which I shall give for the life of the world is my flesh. (John:6-51)

専門家の権威と限界

精神科部長 滝上紘之

皆さんはどんな思いで医者にかかるのでしょうか。

医者に指図されたくないでしょうか。あるいはすがりたいたいでしょうか。現代の教科書的な解答は、「専門家たる医者の勧告を理解しつつ、患者さんが主体となって受療行動をとる。」医者の言うことに従いながら自分で決めるのです(何じゃそりゃ)。

さて精神科は取扱う病気の特性上、自らの病気について理解が難しい患者さんが身体科より多いです(このため差別的な扱いを受けやすく、他の病院にかかる患者さんに「自らの精神科通院について言い過ぎないほうが良い」とお伝えしたりします)。そこに対応するとき、医者の権威が要求されます。その最たるものが、当院にはない精神科の強制入院です。

そんな精神科医のもとに、ご高齢の患者さんが受診されます。血圧の薬、糖尿の薬、膀胱の薬、痛み止め…。各診療科の医者が、その分野において最適だと考える薬の組み合わせが積み上げられたところに、精神科の薬を上乗せするので、薬の副作用・薬物相互作用が増えます(部分最適の積み重ねにより全体最適が毀損される)、「どの薬を減らせるか」には明確な答えがありません。自らの科の病気をどこまで重視しなくてよいのかも、なかなか語られません(当院の総合診療科はこの難題に取り組んでいます)。

そのような限界などないかのように振舞うのが、医者業の深さなのでしょう。矛盾だらけの毎日ですが、宜しくお願い致します。

186号の内容

専門家の権威と限界	1	聖母病院草創期の物語 第2回	3
整形外科通信 第4回	2	お知らせコーナー	3
小児科通信 第4回	2	外来診察表	4



人工股関節置換術のご案内

部長 小川政明

股関節の痛みで、日常生活がづらいばかりでなく、行きたい場所への外出や旅行などの趣味をあきらめていますか？

関節の軟骨がすり減ることで変形性股関節症になり、日常生活に支障をきたしている方にとって、「人工股関節置換術(THA)」は痛みを取り除く極めて有効な治療法です。当院では、確実性に優れた「後方アプローチ」での手術と、患者様、お一人おひとりのペースに合わせた、丁寧なリハビリテーションを提供しています。

後方アプローチのメリット

当院が採用している「後方アプローチ」は、股関節の後ろ側から筋肉の走行に沿って展開する、世界的に最も実績のある術式です。この術式の最大の特徴は、手術中の視界(術野)を広く確保できる点にあります。これにより、人工関節を理想的な位置へ極めて正確に設置することが可能となり、骨の変形が強い方や複雑な症例に対しても、安全かつ確実な手術を行うことができます。

かつては懸念された術後の脱臼リスクについても、現在は手術手技の向上や工夫により、切離した組織を再建し縫合することで、極めて低い水準に抑えられています。

約3週間の入院で、無理のないリハビリを

手術後の回復を左右するのは、適切なリハビリテーションです。当院では「約3週間」の入院期間を設け、患者様が焦ることなく、ご自身のペースで日常生活動作を獲得できるようサポートしています。

手術の翌日から少しずつ離床を開始し、心優しく優秀な理学療法士がマンツーマンで歩行訓練や筋力トレーニング指導を行います。「早く退院しなければ」というプレッシャーを感じることなく、階段の上り下りや靴下の着脱といった、退院後に直面する動作を一つずつ確実にマスターしていただけます。この十分な準備期間があるからこそ、退院後も自信を持ってご自宅での生活を送ることが可能になります。



おわりに

「痛みから解放され、再び自分の足で力強く歩く」。その願いをかなえるために、私たちは確かな手術技術と、ゆとりあるリハビリ環境を整えています。股関節の痛みにお悩みの方は、ぜひ一度ご相談ください。3週間後、笑顔で新しい一歩を踏み出せるよう、私たちスタッフ一同、全力で支えてまいります。



おねしょ(夜尿)でお悩みの方はご相談ください

医長 大塚素子

「夜尿症」という言葉をご存知ですか？ 日本夜尿症学会から出版されたガイドラインでは、「5歳以降で月に1回以上のおねしょ(夜尿)が3か月以上持続している状態」を「夜尿症」と定義して、程度に応じて治療をおすすめしています。

赤ちゃんの頃は昼も夜もおむつにおしっこをするのは当たり前のことですね。赤ちゃんが成長して2~3歳ごろになると夜間の睡眠リズムが安定し、膀胱も大きくなり、夜の間膀胱に貯めておける尿量が増えることで自然とおねしょ(夜尿)は減ってきます。この夜尿が減る時期はお子さんによって違いますから、小さいうちは夜尿があっても叱らずに見守ってください。夜、トイレを促すために起こす必要ありません。



夜尿がある子は、3歳では2人に1人、4歳では3人に1人、6歳では5-6人に1人程度といわれて

います。小学1年生でも30人クラスのうち3~5人は夜尿があることとなります。何もしなくてもだんだんと夜尿は減り、大人になるまでにはほとんどの方が夜尿をしなくなるものですが、小学生で週の半分以上夜尿がある場合は、自然にまかせるより適切な治療をした方が2~3倍はやく卒業できるといわれています。また小学生になると、子ども自身も夜尿を気にするようになってきます。夜尿がある子は、夜尿のない子に比べて自尊心が低くなるという報告もあり、子どもの精神面にも影響を及ぼすことが知られています。適切な時期に治療を開始してあげることで早く卒業できれば、本人やご家族のQOL(生活の質)の向上にもつながります。また、夜尿症だと思っていたけれど違う原因が隠れていた、ということもありますから、小学校に入っても夜尿が続いていたら、一度受診をおすすめします。

夜尿症を診察しているクリニックは、ここ数年の間でもずいぶん増えてきています。当院の夜尿症外来でも、お子様の年齢や生活環境を考慮しながら、生活指導、内服治療、アラーム療法など、原因に応じたいくつかの治療を組み合わせで診療を行っています。夜尿症は一般外来でも診療しています。紹介状がなくても大丈夫です。おねしょ(夜尿)でお悩みの方は、一度ご相談ください。

創立当時の病院風景

小児科 猪野雅孝

国際聖母病院は1931年(昭和6年)12月21日に開院しました。職員は病院長の戸塚文卿神父、第2代病院長となるメリ・オブ・ジザス(Mary of Jesus、エレナ・ハース)を含む7名の医師団(うち常勤医は5名)、マリアの宣教者フランシスコ修道会の会員17名、7名の看護婦と補助看護婦で、職員の国籍は11か国、院内の公用語はフランス語でした。

病院本館1階はL字型の交差点中央に玄関が配置され、角には昇降機(エレベータ)があり、南棟(玄関の左側)と西棟(玄関の右側)の2か所にそれぞれ塔まで続く階段がありました。南棟の中央に幅4mの外來待合室があり、その東側に応接室、電療光線室、X光線室、診察室、医員宿直室があり、待合室の西側に事務室と薬局がありました。西棟には看護婦室、試験室、診察室、処置室などがなっていました。2階の南棟はすべて病室で、西棟には2つの手術室と消毒室、看護婦室、病室などがありました。3階の南棟は病室で、西棟部分は1934年(昭和9年)7月まで、聖堂と修道院として使われました。地階は南棟に事務室、宿直室、食堂、暖房汽缶室(ボイラー室)などがあり、ボイラー室からは屋上まで煙突がまっすぐに伸びていました。西棟には、厨房、氷室、アイロン室、洗濯室などが配置されていました。屋上では結核やくる病の日光浴(日光療法)が行われていました。2つの塔の上に創立時から立っていた避雷針は、現在、フランシスコの庭の聖フランシスコ像の両脇にモニュメントとして残されています。

開設当初、患者といえば、在日外国人と宣教師、修道者や信者たちばかりで、一般患者はごく少数でした。それは病院が市街地から遠く離れた所にあったことも理由の一つでしたが、社会のキリスト教に対する偏見に根強いものがあつたからと思われれます。ローマからコックの助手として派遣されてきたイタリア人のSrリタ・ロカテリはその頃のことを次のように語っています。

「病院の建物の建設が完全に終わってから私たちは病院の3階に移りました。しかし私たちの生活は相変わらず清貧そのものでした。ですから、病院の落成式の準備にも十分な予算はありませんでした。そこで私たちは何でも自分たちの手で作らねばならず、昼夜、その準備のために働きました。やっと病院の準備もできたのですが、今度は患者が一人もいないという悩みにぶつかりました。」



手前側が南棟、奥が西棟

ここで私たちは何でも自分たちの手で作らねばならず、昼夜、その準備のために働きました。やっと病院の準備もできたのですが、今度は患者が一人もいないという悩みにぶつかりました。」

広報活動として教会の新聞や雑誌で報道してもらうだけでなく、1932年には雑誌「主婦之友」に働きかけ、「愛と信仰に輝く看護婦さんの一日」と題した写真入りの記事が掲載されました。その記事から引用します。「近代的な医療で肉の病を、愛と祈りで霊の苦痛を慰めようと、カソリックの修道女方によって愛と信仰に輝く国際聖母病院が東京下落合に昨年建てられました。ここに働く修道女と看護婦さんの一日の生活を御紹介しましょう。」「朝5時起床、それより静かにお御堂に祈りを捧げます。」「修道女によって病院全部の賄(まかない)が行われます。」「薬局の仕事も、全部修道女方の手によって行われます。」「朝8時より外來診察の受付が始まります。病院の経営から会計、事務の細かい点まで、一切男の力を借りずに堂々と修道女方がやっておられます。」「心も身もいたんでいる病者を、心から慰め、力づけ、静かに枕元で回復の祈りを捧げてくれる、修道女の優しい御看護。」

お知らせコーナー

緩和ケアのご案内

緩和ケアとは・・・



- ・ 身体の痛みや倦怠感などの身体的症状の軽減
- ・ 落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛の軽減
- ・ 病気との向き合い方や今後の生活への悩みなど、診断されたときから行う患者さんやご家族の不安や苦痛を和らげるためのケアのことを言います。自分らしい生活を送るためのお手伝いをします。

緩和ケアチームは、以下の専門スタッフで構成されています。

緩和ケア内科医 / 精神科医 / 緩和ケア認定看護師 / 薬剤師 / 管理栄養士 / 医療ソーシャルワーカー / リハビリテーション科 / 歯科衛生士

緩和ケアは、いつでも受けることができます。緩和ケアチームの支援をご希望される場合は、主治医または看護師へお気軽にご相談ください。

* 診療報酬に基づいて算定させていただきます。詳細を知りたい方は、1F 窓口の事務職員にお尋ねください。

聖母病院
緩和ケアチーム

『聖母お元気倶楽部』

開催のご報告と次回のご案内

介護予防講座「聖母お元気倶楽部」が5月28日開催されました。地域から19名の皆さまが参加してくださいました。

今回のプログラム

- 1 当院理学療法士オリジナルの「介護予防運動」と「新宿区ごつくん体操」



- 2 当院管理栄養士による介護予防講座
テーマ：「知らないうちに低栄養？ 一気に過ごすための食事のコツ」でした。

- 3 交流会
交流会ではテーマに纏わる食事のことだけでなく、生活の事、体の事、人生会議に至るまで、和気あいあいと情報交換しました。

次回は8月27日木曜日13:30~15:30

当院看護師による介護予防講座を予定しています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

聖母病院看護部

外来診察表

◇お知らせ◇ 当院は原則予約制です。ご予約のない患者さまは、お待ちいただく時間が長くなる可能性のあることをご承知ください。 (令和8年6.1~)

		月	火	水	木	金	土 (第3週休診)	
内科	午前診療	①	濱松 永昌	宮本 大介	富澤 学之	宮本 大介	濱松 永昌	宮本 大介
		②	予約外	予約外	予約外	予約外	予約外	市瀬 裕一
		③	富澤 学之	市瀬 裕一	北濱真理子	井上理紗子		井上理紗子
		④	増田佳奈子	井上理紗子	総合診療科	高林英日己	佐々木順子	芹川直輝/稲垣裕介
		⑤	庫川 恵理	川崎 麻紀	庫川 恵理	井上ゆか子	井田真規子(10:00~13:00)	庫川 恵理
		⑥	藤井 大輔	増田佳奈子	玉置 博之	藤井 大輔		
	午後診療	①	濱松 永昌	川崎 麻紀	玉置 博之	予防接種外来	濱松 永昌	
		②	宮本 大介	北濱真理子	増田佳奈子		大河内遼太郎(神経内科)	
③			砂金瑛実(神経内科)	北原 愛弓		宮本大介(13:30~)		
④			高林英日己		総合診療科	総合診療科		
総合診療科 (院内標榜)	午前			南郷 栄秀				
	午後				南郷 栄秀	田中 祥子		
内視鏡	午前	鈴木辰典(内科)	高林英日己(内科) 安永浩基(内科)	高林英日己(内科) 濱松永昌(内科)	濱松永昌(内科) 宮野省三(外科)	飯岡愛子(外科)	井上幸紀(外科)	
	午後	第1.3.5 高林英日己(内科)	第2.4 交代制(JOHO東京 新宿メディカルセンター)	高林英日己(内科)	濱松永昌(内科) 宮野省三(外科)	高林英日己(内科) 田中敏明(外科)		
外科	午前	井上 幸紀	井上 幸紀	松延修一郎	田中 敏明	井上 幸紀	田中 敏明	
乳腺外科	午前	加藤 昌弘	菊山みずほ(リンパ浮腫)	菊山みずほ	菊山みずほ		菊山みずほ	
	午後		神野浩光/岩瀬 哲					
泌尿器科	午後	勝井 政博			勝井 政博			
整形外科	午前	①	小川政明(股関節)	橋本健史(足の外来)	小川政明(股関節)	第1.3 村越 薫/第2.4.5 土岐尋江	三箇島吉統(膝関節)	交代制
		②	小林 亜里	小林 亜里	土岐 尋江	小林 亜里		
		③	土岐 尋江	藤井 武(脊椎外科)				
	午後		宮本英明(手の外科) 14:00~15:30(予約のみ)					
産婦人科	午前	初診	兼子 絢華	第1.3.5 戸田里実 第2.4 久保川慎子	山内 美和	増澤 利秀	久保川慎子	宮越 敬
		再診	山内 潤	山内 潤	増澤 利秀	山内 潤	宮越 敬(10:30~)	増澤 利秀
			山内 美和	宮越 敬	戸田 里実	兼子 絢華	戸田 里実	戸田 里実(~12:30) 兼子 絢華
	午後診療			宮越 敬(胎児診断外来)	片岡史夫(腫瘍外来)			
小児科	①	江崎奈緒子	岩丸 良子	江崎奈緒子	大塚 素子	江崎奈緒子	大塚 素子	
	②	前田 由美	前田 由美	第1.3.5 前田由美 第2.4 山中聡子	前田 由美	高橋 美希	前田 由美	
	③	山中 聡子			第3除く 岩丸良子(神経) 第3 松井順子(神経)		第1.5 松井順子	
	④		江崎奈緒子(予防接種)	第2.4 前田由美	高橋美希(予防接種)	大塚素子(予防接種)		
	乳幼児健診		大塚 素子	第1.3.5 猪野雅孝	猪野雅孝(BCG)	岩丸 良子		
	1か月健診	猪野 雅孝	大塚 素子	猪野 雅孝	前田 由美	岩丸 良子		
		前田 由美	岩丸 良子	山中 聡子	大塚 素子	高橋 美希		
専門外来	猪野雅孝(新生児フォローアップ) 第2除く/島田衣里子(心臓) 予約/江崎奈緒子(SLIT)	前田由美(アレルギー) 大塚素子(夜尿症) 予約/岩丸良子	前田由美(アレルギー) 山中聡子(新生児フォローアップ)	月1回/衛藤 薫(神経) 予約/岩丸良子	江崎奈緒子(アレルギー-SLIT) 予約/大塚素子 岩丸良子(予防接種) 高橋美希(予防接種)			
精神科		滝上 紘之	櫻井 昭彦	滝上 紘之	滝上 紘之	滝上 紘之	滝上 紘之	
耳鼻咽喉科	午前	中川 秀樹	中川 秀樹	不定期/中川秀樹	齋藤康一郎	中川 秀樹	中川 秀樹	
	専門外来	音声・嚥下外来	音声・言語外来		音声外来		交代制(慶應大・杏林大)	
眼科	午前	太根 ゆさ	戸ヶ崎英理奈	戸ヶ崎英理奈	戸ヶ崎英理奈	海田 千恵	第2.4 戸ヶ崎英理奈	
	専門外来	不定期/戸ヶ崎英理奈 特殊予約外来	特殊予約外来	手術	落合 淳一	長谷川 三三三	第1のみ 非常勤	
皮膚科	午前	1 診	辻 麗生	辻 麗生	小林里実(辻 麗生)	石河杏奈(交代制) 辻 麗生(交代制)	辻 麗生	
		2 診	石河 杏奈	石河 杏奈	矢作 美奈	西山有希子	石河 杏奈	
	予約外来	川上 理子	小林 里実	川上 理子	特殊治療/小林里実	レーザー一般/松浦功一	第1吉田 傑/第2.4近藤明里	
	午後	小児皮膚科・小児レーザー 第1.3.5川上理子 第2.4松浦功一 掌蹠膿疱症性骨関節炎/ 石原陽子(整形) 光線・学童/辻 麗生	乾癬・掌蹠膿疱症・小児レ ーザー/小林里実 ピーリング/ 石河杏奈 辻 麗生	第2.4小児皮膚科・ 小児レーザー/川上理子 乾癬・掌蹠膿疱症/ 小林里実	手術/小林里実 石河杏奈 辻 麗生	乾癬・掌蹠膿疱症/ 第2.4 小林里実 光線・学童/石河杏奈		

*休診日：日曜、祝祭日、第3土曜日、クリスマス(12月25日)、年末年始(12月30日~1月3日)

予約センターについて

全科診療予約については、予約センターにて受付致します。下記時間内に直通電話にてご連絡をお願い致します。

予約受付時間	平日	9:00~16:00
	土曜日	9:00~12:30(第3土曜日除く)
予約センター電話番号	03-6908-1717	

※産婦人科・乳腺外科以外の科は、当日予約は受け付けておりません。
※検査の予約変更・キャンセルについて、医療上のご質問がある場合は各科外来へご連絡ください。
※診療状況によりご希望の日程で予約が取れない場合がありますが、予めご了承ください。

編集後記



近年は暑さの訪れが早く、新緑の季節から真夏日となる日もみられるようになりました。体への負担も大きく、「暑熱順化」の大切さがあらためて注目されています。無理のない範囲で少しずつ体を慣らし、健やかに過ごしていきたいものです。聖母病院のフランシスコの庭では、紫陽花が静かに咲きそるい、淡い光の中でやさしい彩りを見せています。皆さまにひとときの涼をお届けし、穏やかな夏の始まりとなりますようお願いしております。 T.O